

安曇野市生活支援体制整備事業の実施状況について (第2回安曇野市生活支援体制整備事業第1層協議体)

1 第1層生活支援コーディネーターの活動

平成28年度からこの事業に取り組み、地域共生社会の実現のため活動をしています。

1か月に1回各コーディネーター等が集まり、各地域の活動や情報の交換を行っています。今年度の取り組みとして、高齢者が集える「通いの場」や社会資源等を掲載した「生活支援サービスガイドブック」を、全市版として3年ぶりに改訂し発行しました(別冊)。今後、高齢者の生きがい活動や情報提供に冊子を活用していきます。

また、広報紙「ほほえみのわ」を年2回発行し、市民に本事業の周知を図り、さらなる取り組みへの啓発を行っています。

2 第2層生活支援コーディネーター及び協議体の活動

各協議体会議は、年6回を目安に開催をしています。各協議体で課題を話し合いながら、コロナ後の活動を模索しながら活動を行っています。

(1) 豊科地域

協議体の中で本事業の意義や協議体のあり方について見直す必要があるとの意見があり、検討した結果、地域の課題ごとに3つの小委員会をつくり、課題解決に向けて動きだしました。今後、「高齢者の社会参加」「区の課題解決への寄り添い」「地域での認知症の理解」について活動を進めていきます。

(2) 穂高地域

協議体会議でグループワークを開催し、課題となる事項を話し合っています。今年度は穂高商業高校の生徒が、地域活動を知る一環として協議体に参加し、生徒が課題とした「防災を自分事として捉えてもらうには」をテーマにグループワークを実施しました。高齢者向けに生徒が講師になった「スマートフォン講座」を開催して好評でした。

また、区から依頼があった高齢者や子どもの新たな交流の場開設などの相談にも応じています。

(3) 三郷地域

各区長を対象にした地域課題に関するアンケートを実施しました。高齢化が進む中で支え合いができていない、防災意識が低い、役員のなり手不足等が課題としてあがりました。今後、この課題の解決をテーマに協議体でも検討をしていきます。

高齢者が地元で気楽に集える場としてサロンを開設してきましたが、場所提供者のご都合で違う方法を模索しています。

区から災害時要支援者助け合いマップの更新について相談があり、県社協提供のデジタル方式のマップ導入を支援しました。今後訓練等を重ねて有効に使うことができるよう支援をしていきます。

(4) 堀金地域

各地区での説明会、話し合い等を実施し、公民館等を使った新たな高齢者の居場所づくりや教室実施について支援をしています。また、昨年から実施した全世帯アンケートの結果をもとに、既存の制度を利用しての地域支え合い体制づくり等について支援をしています。

(5) 明科地域

コロナ後各地域で高齢者サロンを開催するようになり、相談にのりながら支援をしています。また、男性の居場所が少ないこともあり、「男の料理教室」を数回開催し、地域活動参加へのきっかけづくりにもなっています。

3 協議体研修会

平成 28 年度から本市で取り組んできた本事業を振り返り、コロナ禍等社会の変化で見えた新たな課題に取り組むため、改めて本事業の役割を確認し、今後協議体が進むべき方向は何かをテーマに、令和 5 年 9 月 6 日(水)安曇野市役所会議室にて研修会を開催しました。

公益財団法人さわやか福祉財団の高橋望さんを講師にお招きし、本市での取り組み状況、国や他市町村の動向等を踏まえた研修となり、今後の協議体活動の充実・強化に向けて見識を深めることができました。

【研修会の様子】



4 今後の活動について

生活支援コーディネーター及び協議体の活動をさらに進めるとともに、令和 6 年 2 月 24 日(土)に市民等を対象にした「地域支え合い推進フォーラム」を開催します。(別紙チラシ)

協議体研修会講師の高橋望さんの基調講演、地域での特徴的な活動を報告し、地域共生社会の実現について考える機会とします。

また、本事業について市ホームページの活用や、広報紙の発行により事業の周知を図ります。